

機械器具 74 医薬品注入器
一般医療機器 静脈ライン用コネクタ 17501000

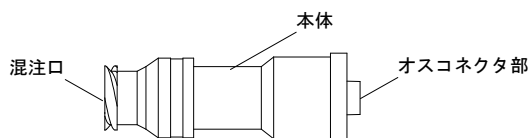
B J コネクタ

再使用禁止

【禁忌・禁止】
再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

〈構造図〉



〈原材料〉

アクリル共重合体、ポリウレタン、シリコーン混和物、シリコーンオイル

〈原理〉

本品は、輸液セット等の静脈ラインに接続し、薬液等の投与、採血を行うための器具である。また、本品は、注射針を使用せず、薬液等の投与、又は採血が行えるものである。

【使用目的又は効果】

本品は、静脈ラインに接続して薬液等の投与又は採血を行うための器具である。

【使用方法等】

1. 薬液等の投与を行う場合

- (1) 包装から本品を取り出します。
- (2) 本品のオスコネクタ部を三方活栓等のメスコネクタに確実に接続します。
- (3) 消毒用アルコール綿等で混注口を消毒します。
- (4) オスルアーテーパを有するシリンジ又は輸液セット等のオスコネクタを、混注口に確実に奥まで差し込みます。
- (5) ルアーロックタイプのものは、確実にロックして接続し、薬液等を投与します。また、ルアーロックタイプでないものは、本品とシリンジ等を確実に手で固定して外れないようにし、薬液等をゆっくりと投与します。
- (6) 投与後は、必要に応じて生理食塩液等でフラッシュを行います。
- (7) 消毒用アルコール綿等で混注口に付着した薬液等をふきとります。

2. 採血を行う場合

- (1) 包装から本品を取り出します。
- (2) 本品のオスコネクタ部を血管内留置カテーテル等のメスコネクタ部に確実に接続します。
- (3) 消毒用アルコール綿等で混注口を消毒します。
- (4) 混注口にオスルアーテーパを有する採血器具(シリンジ等)を確実に奥まで差し込み、採血します。
- (5) 採血終了後は、血液凝固を防止するため、生理食塩液等でフラッシュを行うか、ヘパリンロックを行います。
- (6) 薬液等の投与後、続けて採血を行う場合は、以下の手順で行います。
 - 1) 本品を確実に手で固定し、シリンジ及び輸液セット等のオスコネクタを外します。

- 2) 消毒用アルコール綿等で混注口を消毒します。
- 3) 混注口に、オスルアーテーパを有するシリンジを確実に奥まで差し込み、下流側に残存している薬液を吸引します。
- 4) 下流側に血液が満たされてきたら、混注口に新たなオスルアーテーパを有する採血器具(シリンジ等)を確実に奥まで差し込み、採血します。
- 5) 採血終了後は、血液凝固を防止するため、生理食塩液等でフラッシュを行うか、ヘパリンロックを行います。

〈使用方法等に関連する使用上の注意〉

1. 混注口は混注前に消毒用アルコール綿等で消毒すること。[細菌混入のおそれがある。]
2. 混注口の消毒剤にポビドンヨードを使用しないこと。[ポビドンヨードの析出物が混注口のスリットに侵入し、液漏れが生じるおそれがある。]
3. コネクタを他の医療機器と接続する場合は、次の事項に注意すること。
 - (1) 過度な締めつけをしないこと。[コネクタが外れない、又はコネクタが破損するおそれがある。]
 - (2) コネクタのテーパ部に薬液等が可能な限り付着しないように注意すること。[接続部に緩み等が生じるおそれがある。]
4. シリンジ及び輸液セット等を混注口に接続する際は、本体を保持すること。[十分な力が加わらず接続できないおそれがある。]
5. 混注口をシリンジ及び輸液セット等と接続する場合は、過度な締めつけをしないこと。[混注口が破損するおそれがある。]
6. オスコネクタを混注口に接続する際は、確実に奥まで差し込むこと。[通液しないおそれがある。]
7. 持続的に投与する場合は、ロックタイプの輸液セット等を使用すること。[混注口の反発力により、混注時に外れが生じるおそれがある。]
8. 注射針を用いて混注等しないこと。[混注口を破損させ、液漏れが生じるおそれがある。]
9. シリンジ等で混注又は吸引操作を行う場合は、ゆっくりと操作すること。[破損、液漏れ、空気混入が生じるおそれがある。]
10. 混注口からヘパリンロック等を行って輸液を中断する場合は、血管内留置カテーテルに付属されているクランプ又は本品と血管内留置カテーテル等の間のクランプ等を閉じてからシリンジ等を外すこと。また、ヘパリンロック等を行っている間は、閉じたクランプ等を開放しないこと。[血管内留置カテーテル等に血液が逆流し、カテーテル内が閉塞するおそれがある。]
11. 混注口から混注する場合は、混注する薬液の特性を考慮し、必要な場合は、混注前後に生理食塩液等でフラッシングを行う等、適切な処置を講ずること。[薬液を混注した場合は、薬液の一部が直ちに流れずに混注口内部に残るおそれがある。]
12. 混注口から薬液を混注する場合は、接続するシリンジ、輸液セット等の内部に空気が入っていないことを確認した後、接続部に緩みがないことを確認の上、混注すること。[本品に、接続側の空気あるいは接続部からの空気が混入するおそれがある。]
13. 必要に応じて混注口の空気を抜くこと。[混注口にオスコネクタを接続する際に空気が混入するおそれがある。]
14. 本品を鉗子等でたいたり、衝撃を与えたりしないこと。[混注口等が破損するおそれがある。]
15. 混注口とシリンジ等の接続部には、横方向に過度な負荷を加え

ないこと。[混注口が破損するおそれがある。]

16. 血管造影剤等の高圧注入には使用しないこと。[液漏れ又は破損が生じるおそれがある。]
17. シリンジ及び輸液セット等を混注口から外す際は、混注口の本体を保持し、他の接続部が緩まないように注意すること。

【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

1. 使用中は本品が患者の下敷きにならないように注意すること。
[破損等により、液漏れ又は空気混入等が生じるおそれがある。]
2. 使用中はコネクタの接続の緩み、液漏れ及び破損等に注意し、定期的に確認すること。
3. 先端外周部が段差状に隆起しているオスコネクタを接続すると、混注口が開かないおそれがあるので、流路が確保されたことを確認の上、混注すること。[全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じるおそれがある。]

〈不具合・有害事象〉

その他の不具合

空気混入、漏れ、破損、外れ、緩み、詰まり

【保管方法及び有効期間等】

〈有効期間〉

3年 [自己認証(当社データ)による]

包装の使用期限欄を参照すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

株式会社ジェイ・エム・エス

問い合わせ先

TEL 0120-901-509